

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800071		
法人名	有限会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム 千手 (1Fたんぽぽ・2Fアパート千手)		
所在地	〒813-0043 福岡県福岡市東区名島1丁目6-13		TEL 092-663-9111
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果確定日	平成23年02月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成 23年02月04日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム千手が開設して2年近く経つが、2カ月おきの地域運営推進会議の開催により、地域の自治会長・民生委員・包括支援センター・ご家族との結びつきも少しずつ強くなってきている。地域の行事も含め、今後も地域の一員として参加できるように努めていきたいと考えている。事業所の取り組みとして、内部研修や福岡市による外部研修の参加にも積極的に取り組んでいるが、職員の一層のスキルアップを目指し、ご利用者様・ご家族様が安心して、安全に過ごせることを大切に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海の中道海浜公園や香椎花園の近くで、見晴らしの良い住宅地の一角に二階建て、2ユニットのグループホーム千手がある。「利用者のその人らしさを大切に、常に寄り添い、安心して穏やかに過ごせるように支援する」という理念を掲げ、管理者と職員が一体となり、利用者を支える光景は、信頼と安心感に包まれ、家族の評価は高いものがある。開設2年目であるが、地域行事や子供110番等を通じた近隣住民との交流で得た信頼関係は、見学や相談事業等に広がり、地域密着型ホームとして安定した活動が始まっている。また、24時間往診可能な医療連携体制を確保し、生活リハビリを取り入れ、メリハリのある暮らしは、利用者の身体機能の維持向上に繋がり、自由でのびのび過ごす利用者の様子は、来訪者の気持ちを温かくするものがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19) ○
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、ミーティング時に唱和を行い、運営理念を全職員に意識付けをして、日々の業務に行っている。	そのらしさを大切に寄り添い、利用者が安心して穏やかに過ごせるような支援、また、地域との交流を密に行い、季節毎の行事を大切に变化のある生活ができるよう支援することをホームの理念に掲げ、職員は唱和することで理念を共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入り、地域の清掃活動や行事(子ども神輿)等に参加させて頂いている。又、近隣の方のホーム見学や介護相談に来られることが多くなってきている。今後も地域活動に積極的に参加して交流を深めていきたい。	自治会に加入し、区長が地域便りを毎月届けて下さるなど、地域の中でのホームの存在、関係が深まりつつある。地域の小学生から敬老会にお祝いのカードが届き、地域行事への誘いがあるなど交流は広がっている。管理者は、利用者と雑巾などを縫い、幼稚園や保育園に届けるなど、役割を持った交流を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム利用の相談にとどまらず、福祉分野全般の相談に応じている。事業所の持つネットワークを活かして関係窓口につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、利用者家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等の参加で2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの活動内容や行事報告、地域の情報収集、意見交換を行いサービス向上に努めている。又、地域の方のご協力にて、緊急時の協力的体制・火災訓練を実施することができている。	会議は2ヶ月に1回、ホームのリビングで、利用者の日常生活を見てもらいながら、毎回テーマを決めて行われている。参加メンバーは、利用者代表、家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員等で開催され、活動や行事報告をし、活発な意見交換が行われ、出された意見や要望は、ホーム運営に反映出来るよう努力している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表が、市の担当者と頻りに情報交換をしている。何かあれば、すぐに相談・助言を頂けるような関係づくりが出来ている。	代表をはじめ管理者も、電話ではなく市の窓口へ直接出向き、話をしてコミュニケーションをとるように心がけ、協力関係を築くための努力をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、内部研修、外部研修を行い理解に努め、意識付けを行っている。	身体拘束廃止マニュアルを用意している。外部や内部研修を通して、管理者、職員は、身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や勉強会を開催し、理解を深めるよう努めている。職員間での意識・徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいる。高齢者の権利擁護に関する研修会への参加、内部勉強会を通じて学んでいる。	制度を利用している方がいて、実際に制度について学ぶ機会がある。また、職員は制度に関する外部研修に参加し、資料、パンフレットを持ち帰り、内部で伝達研修を行い、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約書及び重要事項説明書の内容をご利用者・ご家族に不安がないように説明を行っている。又、疑問点不安事項についてはその都度説明を行い納得して頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には、面会時や家族会等でお話ができる場を設け、意見や要望等何でも言って頂けるような雰囲気づくりに留意している。又、出された意見・要望は、その都度、職員間で話し合いを持ち、反映・改善に努めている。	日頃から家族の訪問が多く、運営推進会議にも家族が交代で参加されている、機会を逃さず意見を聴き取るようにしている。また、家族会は多くの家族が参加し、横のつながりができ、思いや要望、意見を出し合える活発な会となっている。そこで出された意見は、出来る限りホームの運営に反映させるよう努力している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、勉強会を行い、意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図れるよう心がけている。又、年2回人事考課を行う際に、個人面談を行い意見や提案等を聞く機会を設けている。	管理者、職員は、日常の中で、常に気づきや意見などを言い合えるよう、コミュニケーションを密にとっている。また、毎月1回行われる全体とユニット毎の職員ミーティングでは、活発な意見交換がなされ、出された意見、提案をホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表も頻繁に現場に来ており、管理者より個々の職員の業務や悩みを報告、把握している。又、年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働ける環境を整えている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、性別や年齢、経験有無等に制限は設けていない。職員の経験を活かし豊かな生活を利用者へ提供できることから、幅広い年齢層を採用している。資格取得についても奨励している。又、産前産後休暇や育児休暇の取得、学校行事等の参加にも配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別、経験によって区別することはない。職員に対しては、ロッカーを設け、交代で休憩がとれるよう声かけを行い、また、職員一人ひとりの事情に合わせて勤務ローテーションを組むなど、職員が向上心を持って生き生きと働けるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権・プライバシーについての研修会への参加、内部研修を通じて学んでいる。又、毎月、倫理研究所発行の「職場の教養」冊子を全職員に配布、日めくりになっていて毎日、出勤前に読んだり、申し送り、ミーティング等に唱和して人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	職員は、人権についての外部研修会に参加し、内部で伝達のための勉強会を行い、高齢者の人権尊重について全員が理解し、啓発活動に繋がる努力を実践している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修へ参加できる支援体制がある。内部・外部研修共に年間学習計画を立て毎月勉強会を行い、ケアの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、ホスピス緩和ケア・ネットワーク福岡の勉強会等にて情報交換などの交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用の希望があった時は、事前に訪問に伺うようにしている。ご本人様からの要望等の聞き取りが難しい事があり、ご家族からの聞き取りにより、ご本人様が安心して頂けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用の希望があった時は、事前に電話や面談をさせていただき、ご家族の要望等をゆっくりと伺うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に、ご家族の思いを確認し、ご本人様やご家族が必要としているもの、解決してほしい事をサービスにつなげられるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の得意されるものを見つけ、生活の中で役割を持って頂くようにしている。職員も食事の作り方や周りの方への配慮など教えて頂くことも多く、共に支え合う関係を築くように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の様子や日頃の気付きをご家族様にも細かに報告している。ご家族様の面会時には居室でご家族様との時間を持って頂けるように配慮し、おやつや食事等の介助もご家族様に、職員が支援しながら行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やお寺のご住職の訪問など、いつでも面会できるようにしている。また、ご本人様にご友人宛てに出されるはがきを預かり、郵送するように支援している。	入居前に利用者が住んでいた家を、利用者と一緒に訪ねたり、知人、友人の訪問を歓迎するなど、利用者が大切に思っている場所や、馴染みの人への関係継続に向けた支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席の工夫や、レクリエーション等を通してご入居者様同士が関わり合いが持てるように工夫している。また、職員も間に入り、関わりが円滑になるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方のお見舞いに病院へ行ったり、ご家族様にもご本人様のご様子を伺う為に連絡している。不安な事や心配ごとがある時は相談も伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、ご本人様の言葉や表情からくみ取ったり、また、短い言葉や選択して頂けるような声掛けにより把握できるように努めている。ご本人様からの希望の聞き取りが難しい方にはご家族様から伺うようにしている。	職員は、利用者の日々の暮らしに寄り添いながら、利用者のつぶやき、表情の変化等から、本人の思いや意向を汲み取る努力をしている。また、意向の表出の困難な利用者に対しては、これまでの履歴、家族からの情報などをもとに、本人本位のケアが実践できるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の様子や日頃の気付きをご家族様にも細かに報告している。ご家族様の面会時には居室でご家族様との時間を持って頂けるように配慮し、おやつや食事等の介助もご家族様に、職員が支援しながら行って頂いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活リズムの把握に努め、ご本人様の変化や気付きは毎日の申し送りやミーティング等で、職員間で共有できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりにより、ご本人様やご家族からの思いや意見をくみとれる様に配慮している。毎月のミーティングや申し送り等で職員間でアイデアや意見を出し合い、モニタリングを行った上でケアプランに結びつけるようにしている。	家族からの、「過剰な薬を控えて欲しい」「足が冷えるから夜寝付けないのでは？」といった要望、意見を細やかに聴き取った上で、月1回のミーティング、毎日の申し送り時に出される職員の気づきや意見を取り込みながら、現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報により、ホーム全体の状態、個別記録により、ご本人様の状態が細かに把握できるように努めている。申し送りや日誌を勤務前に確認することで職員が共有できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状態により、必要な通院や病院への送り出しについてはご家族に相談の上対応している。今後も状態により、ご本人様やご家族の意向や必要性があれば、相談に応じていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、自治会長・民生委員・地域包括支援センターに参加して頂いており、地域活動の情報や行政からの情報を頂いたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間往診可能な医師により、緊急時にも対応できるようにしている。必要時には、ご家族に往診に立ち会って頂き、医師からの説明を直接聞いてもらうように支援している。	利用者、家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診を支援している。ホームでは3名の協力医による往診が行われ、また、24時間365日のオンコールの医療体制を整え、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、看護職員を配置しており、健康管理や医療面での相談も行ってもらっている。必要時には連絡をし、医療に繋げてもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様の心身状況を病院関係者に伝え、入院中もお見舞いを重ね、ご本人様の状態把握に努めている。ご家族に相談の上、病院内でのカンファレンスにも参加させて頂いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、契約時ご本人、ご家族に説明している。日々の関わりの中で、ご本人・ご家族の思いの把握に努めている。重度化した場合は、再度方針の説明、話し合いの場を設け、可能な限り希望に添えるように努めている。	「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、入居時に説明している。実際に看取りに向けたケアも始まっており、管理者、職員は緩和ケアの研修に参加する等、スキルアップに努め、家族、関係者と繰り返し話し合い、方針を共有し、利用者の重度化に向けての体制作りにも努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、勉強会を通して訓練している。今後も、訓練を定期的に行い全職員が実践力を身につけられるよう努めていきたい。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。(うち1回は、夜間の想定で実施)運営推進会議を通じて、地域の協力体制作りをしている。	スプリンクラーを設置し、地域住民の協力を得ながら、夜間を想定した場合を含めて年2回避難訓練を行っている。また、非常災害時、電気、ガス、水道が止まった場合に備えて、飲料水、非常食などの備蓄も万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の気持ちを大切にしながら、声掛けやケアを行うように心掛けている。個人情報の取り扱いにも留意している。	利用者の気持ちに寄り添い、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を行っている。個人の写真や、個人情報の取り扱いについては、説明した上で承諾書を頂くなど、細心の注意を払っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご本人様の言葉や表情で意思をくみ取ったり、ご本人様が答えやすいように選択肢を伝えて選んで頂くことで、自己決定できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間の睡眠の状態や体調をみながら、就寝や起床の時間を変えたり、休憩をいれたりご本人のペースを大切にするように心掛けている。喫煙なども、医師と相談のもと、希望に添えるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ時は、季節に合わせてご本人様に選んで頂いたり、髪の色や長さは美容師に相談しながらカットできるように支援している。また、鏡をみて整容する、入浴後は化粧水をするといった生活の習慣も継続できるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、調理や盛り付け、片付けなどご入居者様と共に行っている。職員もご入居者様と一緒に同じテーブルで食べ、楽しい雰囲気です。	利用者一人ひとりの力に合わせて料理の下ごしらえ、配膳、片付けなどを職員と一緒にしている。食事は、冷蔵庫の中身を見て、利用者、職員で相談しながら献立を考えている。食事は、一人ひとりのペースで、急かすことなくゆっくりしてもらい、楽しい会話と笑い声の溢れる食事風景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日を通じて確保できるように24時間のチェックシートで管理している。毎食時、残量の確認し、飲み込みや咀嚼に合わせて、食事形態も工夫している。食事量が少ない時は、時間を空けて召しあがって頂くこともある。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをしている。義歯洗浄や歯間ブラシも個別に対応している。ご入居者様の状態に応じて、歯みがきの形態を変えたり、スポンジ等も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様からのサインに留意し、24時間の排泄チェックシートにより、排泄パターンの把握に努め、なるべくトイレで排泄できるよう心掛けている。また、時間帯によってパットやオムツも検討し、変えている。	利用者一人ひとりの水分摂取量、排泄チェック表からその人のパターンを把握し、利用者へ寄り添いながら細やかな声かけによって、排泄の自立に向けて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜などの繊維質の多い食品や牛乳の提供、水分量の確保、運動の取り組みにより、便秘解消に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には、出来る限りご本人様と一緒に着替えなどを準備するように心掛けている。午前・午後共に入浴でき、ご本人様からの入浴希望があれば、体調をみながら対応するようにしている。	入浴は、特に曜日などを決めず、利用者の希望によりいつでも入浴することができる。入浴を拒否される利用者に対しては、いろいろと話をしながら気分を盛り上げ、入浴していただけるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動量を高め、生活のリズムが整うように努めている。ご入居者によっては、入眠しやすいようにホットタオルを用意し、足を温めている。日中もソファや自室のベッドで休息がとれるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状は個別のファイルに保管し、職員が把握できるようにしている。薬の変更があった時は申し送り伝え、状態の変化がないか記録をとり、医師や看護師に相談している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の生活歴を把握し、得意とされる事を役割として持って頂くことで、生活の中に張り合いが持てるように支援している。お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら、買物や散歩に出かけている。体調をみて、ご家族様協力もと、一時帰宅の機会も設けることができた。今後もご本人様・ご家族様の希望があれば、支援できるように努めたい。	利用者のその日の体調、気分に合わせて、買物、散歩、ドライブなど、日常的な外出支援をしている。また、ホームは、高台の眺めの良い場所に立地し、天気の良い日には庭に出て季節の花を楽しんだり、景色を眺めたりしながら、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様がお金を持っていないと不安と言われ、ご家族の了承のもと、財布を持っておられる方もいる。はがきや切手を購入するため、お金を預けられることもあるため、支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望時に、ご家族に電話をかけたり、手紙のやり取りがある方には、ポストへの投函をする支援をしている。年末は年賀状出す機会をつくり、ご家族からの返事に喜ばれる場面もあり、今後も支援していきたい。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには花を飾り、リビングにはダイニングテーブル・ソファなど、くつろげる空間を作っている。リビングより、ウッドデッキが庭に続き、庭木により季節感も味わえるようになっている。24時間換気システムも完備している。	ホームの庭には、季節の庭木、花が植えられ、ウッドデッキからの眺めは利用者の楽しみとなっている。ホーム内には花、写真、絵画などが飾られ、明るく温かい雰囲気である。また、24時間換気システム、2重サッシなどが取り入れられ、利用者が過ごし易い環境を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションなどで、参加される方だけで一つのテーブルを囲んだり、共有の空間で一人にすることは難しいが、休息の為にソファで休んでゆっくりできる空間をつくることは心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご本人様・ご家族様と相談のもと、自宅で使われていたタンスやテーブル等が持ち込まれ、若いころやご家族の写真が置かれたりと、ご本人が自宅で生活されていたころの雰囲気が持てるように配慮している。	利用者、家族と相談しながら、タンスやテーブル、椅子、仏壇、キーボードなどを持ち込んでもらい、写真、絵画を飾り、落ち着いた居心地良く過ごせるような居室作りを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の居室の前には表札を、『トイレ』についても大きく表示し、ご入居者様に場所がわかりやすいように工夫している。		